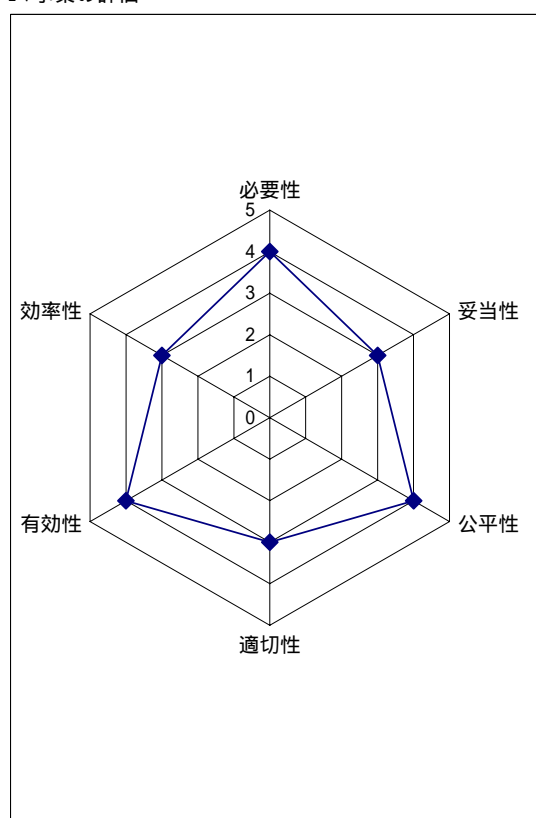


事務事業名	国内交流推進事業	担当部局	教育委員会
基本目標	明日を拓く豊かな市民文化と人づくり(教育・文化)	担当課名	指導課
施策体系	ともに学び、ふれあう家庭・地域教育	担当係名	指導係
施策	さまざまなふれあいの場をつくる		

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	結城市と福井市との友好都市交流事業として、小学生6年生がホームステイ体験を通して相互交流することにより、お互いの歴史や文化を理解し合える人材を育成する。		
事業の期間(開始/終了)	99年 月 / 99年 月		
根拠法令、条例、規則など	第4次結城市総合計画 後期基本計画 第3部基本計画第5章 「市民の誇りとなる対話と協調の都市づくり」		
事業が対象としている人(モノ)	参加者(小学校6年生)		
具体的な活動内容	参加者の募集		
	宿泊を伴う相互交流を行う		
	報告書を作成する		
事業の成果	小学生の参加		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	4 依然、必要性が高い 本事業の実施により、結城市の児童が結城市の歴史に密接に関わる福井市との交流を深め、結城市に対する理解と愛着を高めることができる。したがって本事業は、将来の結城市を担う人材の育成に必要な事業である。
	3 どちらとも言えない 民間委託も可能であるが、現状の予算の内では市が実施せざるを得ない。
公平性	4 目的とした対象者に対しては、概ね広く便益を提供している ホームステイにより家族ぐるみで交流を行うことができ、結城市と福井市の交流を参加者から家族関係まで広げることができている。また、参加者の交流内容は文書や掲示物にまとめられ、公民館等に掲示される。
	3 どちらとも言えない ホームステイの実施が参加者募集の障害になっているが事業の目的達成には有効な手立てである。
有効性	4 概ね目標水準に達している 結城らしさのある都市を、市民から築いていくための素地を育てる事業であり、施策の効果が高まることが期待できる。
	3 どちらとも言えない 見学や宿泊に係る施設にかかる経費を圧縮し、コスト効率は高まっている。人員については学校職員を臨時職員としていることで効率を高めている。

総合評価	ホームステイを核家族の増加した家庭環境で実施することに無理が生じている。福井市との相互の検討が必要である。参加者募集及び事業実施を学校単位としているが、市子連を中心に関わることが今後の事業の効果を上げることに有効である。
------	--

3. 今後の事業の方向性

所属長判断	事業の方向性判断	短期的方向	維持継続	中長期的方向	維持継続
	説明	児童の郷土を愛する態度の育成には、貢献度が高い。さらに両市の歴史的関係の充実を図るためには、福井市が市子連を中心に事業を展開している点からも実施の主体を考慮したい。			
決定権者判断	決定内容	維持継続			
	説明	友好都市福井市と結城市の歴史、文化を学び交流することにより、なぜ友好都市なのか学習できる。歴史的つながりを学ぶ主旨、目的は良いので継続とするが、実施主体等について一部検討をし改善を図る。			